



JTUC-aomori

No.417 2024年11月

れんごろう 青森

発行 日本労働組合総連合会
青森県連合会(連合青森)
発行人 中野 隼 編集人 堤 史子
青森市本町3丁目3の11
青森県労働福祉会館内
TEL (017)735-0551
FAX (017)735-0553
URL <http://aomori.jtuc-rengo.jp/>
月1回発行 1部10円
(組合員の購読料は会費の中に含む)

連合青森第23回地方委員会



労働運動の更なる前進に向け、方針補強を確認!

連合青森第23回地方委員会が10月29日(火)13時30分から八戸市の八戸パークホテルで地方委員、役員など約80名が出席し開催された。

地方委員会は中村一明三八地協議長の開会あいさつで始まり、議長に岩橋優太地方委員(自治労)を選出し、議事が進められた。

主催者あいさつに立った塩谷進会長は冒頭、1月1日に発生した能登半島地震により被災された方々にお見舞い申し上げるとともに、早期復旧に向け取り組んでいる構成組織の皆さんに感謝の意を表した後、『春季生活闘争』『政治』『平和活動』の3点に絞りあいさつを述べた。ステージ転換を図る正念場の年とした2024春季生活闘争について「2003年以降もっとも高い水準となった一方で県内の価格転嫁が進んでいないという課題を踏まえ、2025年も継続した賃上げ実現に向け取り組む」と強調した。また第50回衆議院選挙で県内2議席を確保した結果を述べ、「地方から反転攻勢のスタートを切ることができた。この勢いを来年執行される第27回参議院選挙においても継続させ、立憲・国民が政治勢力の核となるよう環境づくりに取り組む」と述べた。

この後来賓あいさつに移り、八戸市佐々木郁夫副市長、立憲民主党県総支部連合会田名部定男代表代理、国民民主党県総支部連合会金濱亨代表、県民社協会竹山美虎事務局長より激励のあいさつをいただき、連合芳野友子会長からのメッセージが披露された。

地方委員会中盤に入り、連合愛のキャンパ地域助成団体となった『東北町サポートピノキオ』の高田理子代表と『十和田子ども食堂』の推薦者であ

る上十三地協の原浩輔事務局長からのお礼の言葉を頂戴した。原事務局長は「行政のセーフティネットにも引っかかることのない、明日食べるものもないという人を救う、この活動の意義は大変大きい」と活動の重要性を言葉にした。

次に「活動報告、会計報告、会計監査報告」が行われ、満場一致で採択された。続いて議事に移り、「集团的労使関係の追求」や「真の多様性が根付く職場・社会の実現」、「政策実現に向けた政治活動の推進」などを盛り込んだ第1号議案「2024～2025年度運動方針の補強(案)」、第2号議案「2024年度一般会計剰余金の処理(案)」、第3号議案「連合青森規約の一部改正(案)」、第4号議案「2025年度予算(案)」、第5号議案「第18期役員補充」について提案され、1件の質疑があった。内容は「残された課題について『人財確保に向けた具体的にしくみの検討・構築』とあるが抽象的である。明確な内容を教えてほしい」と質疑。これに対し執行部からは「研修や学習会など外部講師を招くことも含め、人財育成の機会を増やしていく」と答弁がなされ、採択された。

続いて、新任役員3名からあいさつをいただき、労働運動のさらなる深化を実現するとして「アピール」を採択し、塩谷会長の音頭で団結ガンバローを三唱し、意思統一を図った。



「加盟組織の横断的な連帯感の醸成」と「次代を担う人財育成」を掲げて 2024青年委員会ユースラリー「楽宴祭～わもなも けやぐ だすけ～」開催

連合青森青年委員会（米田裕哉委員長）は9月28日（土）～29日（日）の両日、ユースラリー『楽宴祭～わもなも けやぐ だすけ～』を開催した。

新型コロナウイルスの影響により、ユースラリー形式での開催は実に5年ぶりであったが、青年委員会の目的である「加盟組織の横断的な連帯感の醸成」と「次代を担う人財育成」へと寄与すべく、そして何よりも「青年活動を盛り上げていこう」という役員たちの熱い思いから開催するに至った。

この間、役員も一新され、手探り状態での検討となったものの、各構成組織で培った経験を基に、「企画はどうするか」「どのような組合員に参加してもらいたいのか」「どうすれば沢山の組合員に集まって貰えるのか」等、各地協青年女性連絡会の役員も交えながら議論を重ねた。

初日は「スポーツレク（種目：キンボール）」を実施。チーム編成は組織が偏らないよう振り分けを行ったことから、「はじめまして」の自己紹介から始まった。最初こそ緊張が見られたが、試合が進むにつれ連携も良くなり、喝采が上がるようなプレーと笑顔が増え、会場全体で一体感を感じられた。

夜は「野外懇親会」とし、七戸町「東八甲田家族旅行村」にてバーベキューと表彰式、そして最後はキャンプファイヤーを実施。より一層親睦を深めることが出来た。

2日目は「政治学習会」を開催。連合青森中野隼事務局長が「政治と労働組合」と題し講義を行った後、来るべき「第50回衆議院議員選挙」に向け、連合青森推薦候補者である1区「升田世喜男」氏



親睦を深め合った
バーベキューと表彰式



政治学習会で語る
升田世喜男候補者

と2区「金濱亨」氏を招き、参加者の年代層に合わせ「自身の青年時代」「政治の道へ進もうと思ったきっかけ」等についてご講演をいただいた。

最後は米田委員長より「第50回衆議院議員選挙の必勝」と「青年委員会の活動をますます盛り上げていく」ことを祈念し力強くガンバロー三唱を行い、2日間の全行程を終了した。

参加者からは、「コロナ禍に入社したので、このようなイベントが開催されるなんて考えたこともなかった」「連合・労働組合でこんなに楽しいイベントをしているなんて知らなかった」「自組織でも開催してみたい」「来年はもっと仲間を連れてきます」といったポジティブな感想を多くいただいた。

参加者の感想と2日間の盛り上がりを踏まえれば、冒頭に述べた青年委員会の目的である「加盟組織の横断的な連帯感の醸成」と「次代を担う人財育成」に即した非常に有意義なイベントであった。



かけがえのない食・緑・水を守り続けるという意識を！

第29回食・みどり・水のフェスティバル

連合青森は11月2日(土)、青森市の「サンロード青森」イベントホールで「第29回食・みどり・水のフェスティバル」を開催し、組合員や一般市民など1,500名が来場した。

このイベントは本県の基幹産業である農業・林業などに携わる連合青森加盟関係労組（自治労、全農林、全水道、林野労組）により例年開催している。

開会にあたり連合青森塩谷進会長は、「地球にやさしい環境づくりに向け、青森県のおいしい食べ物と水、豊かな自然を守り育てることの大切さなど、本県に暮らす私たちだから出来ることを皆で意識するきっかけにしてほしい」と挨拶した。

また、組合員が田植えから稲刈りまで行い生産している「アジア・アフリカ支援米」のお披露目と発送式が行われ、多くの子供たちが飢えて苦しんでいるマリ共和国に向けて600kgが発送された。

ステージイベントでは「利き水コンテスト」や「森林クイズ」、「野菜の輪投げゲーム」などが行われ、各ブースでは「お米計量チャレンジ」や「ゆるキャラふれあい」、「リース作り」や「外ヶ浜物産販売」、各労組が考案した「クイズラリー」など、多くのご家族が参加し、大いに盛り上がりを見せ、クイズラリーに参加した方へは空くじなしのガラポン抽選会が行われ、金賞の『青天の霹靂20kg』を引き当てた2名から大歓声があがった。



森林労連ブース
『リース作り』



自動車総連ブース
『親子deものづくり』



全農林ステージイベント
『野菜の輪投げ』

2024年12月行動予定

- 12月2日(月) 13時30分 県労働福祉会館
「第10回四役会議」
- 12月3日(火) 17時45分 県労働福祉会館
「第4回食みみ実行委員会」

- 12月5日(木) 12時 さくら野青森店前
「れんごうの日街頭行動」
- 12月6日(金) 13時30分 県労働福祉会館
「第10回執行委員会」
- 12月10日(火)～11日(水) 10時～18時
「全国一斉なんでも労働相談ダイヤル」

災害の種類	割合
台風	27.6%
他の自然災害	25.2%
地震	15.4%
降雷	19.1%
合計	89,199件

第50回衆議院議員選挙

皆さまのご支援に感謝いたします

第50回衆議院議員選挙は、10月15日公示・10月27日投開票で執行された。その結果、連合青森推薦候補者3名のうち、3区・岡田はなこ候補者は当選、1区・ますた世喜男候補者は次点であったものの比例復活と2名が当選を果たした。2区・かねはまあきら候補者については善戦むなしく惜敗となった。

3名全員の当選には至らなかったものの議席数を伸ばしたことにより、働く者・生活者の立場にたった社会実現に向け、一步前進した結果となった。

連合青森はこの結果を総括し、来年の第27回参議院議員選挙につながるよう運動を進めていく。

■連合青森推薦候補者『結果』

選挙区	候補者名	政党	期数	結果
青森1区	ますた 世喜男	立憲民主党	元1	次点・比例復活
青森2区	かねはまあきら	国民民主党	新	惜敗
青森3区	岡田 はなこ	立憲民主党	新	当選



比例復活を喜ぶ
升田世喜男議員



国政選初出馬の金濱亨氏



初当選を果たした
岡田華子議員



連合芳野友子会長も来青



連合青森の今月の取り組みは、11月の『過労死等防止啓発月間』にちなみ、自身の労働時間の再確認を呼びかけるなど、『過労死等ゼロ』にむけた街頭行動を11月21日(木)、青森市の「さくら野百貨店」前にて行った。

塩谷進会長は「日本では毎年約140人以上の方が過労死、過労自殺により亡くなっており、これは労災認定された方々の数であり、実際にはもっと多くの方が、死に至るほどの長時間労働やストレスに苦しんでいると推測される」と訴え、「この機会に自らの業務を一度、見直してほしい」と強調した。

また長時間労働是正や過重労働解消のみならず、36協定の適切な締結、年次有給休暇取得促進なども呼びかけた。



岡田華子衆議院議員と
金濱亨国民県連代表も参加

